

# 喜びいっぱい 生きていますか。



KONKOKYO

## 「カミサマって本当にいるの?」

いろんな方から、よくこんな質問を受けます。みなさんも一度くらいは考えたことがありますか。

安子ちゃんは、小学三年生になる元気で明るい女の子です。

ある日、安子ちゃんは学校から帰ってくるなり、「ねえねえ、お母さん。神様って、いるの? どこにいるの? どんな人なの?」と、矢継ぎ早に尋ねてきました。お母さんは、「急に、どうしたのよ」とビックリ。

聞くと、学校での休み時間に、神様がいてるかいけないか、みんなで言い合ったということです。

母「へえ、そうだったの。それで、安子はどっちなの? いるほう? いないほう?」

娘「よく分からない」

母「そう。お母さんは、神様って、いるんじゃないかなと思うの」

娘「どうして?」

母「たとえば、安子ごはんをたくさん食べるよね。そのお米って、だれが作ってるか、知ってる?」

娘「農家の人」

母「そう、農家の人たちが一生懸命に作ってくれてるんだよね。でも、お米って、太陽の光や水や空気、土がないとできないし、人間だって、空気や水がないと生きられないよね」

娘「うん」

母「そういう自然の恵みを頂いて、お米もできるし、安子も元気に育っているのよ。人間やお米やいろんなものを生かそう、育てようっていう大きな力と働き、お母さんね、それが、神様なんだって思うの」

娘「ふーん。でも、どうして、神様は、育てよう、って思うの?」

母「きっと、人間や生き物が、かわいくて、かわいくて仕方ないんでしょうね。でも、そんな神様の心を、

安子ももらっているのよ」

娘「えっ、どんな?」

母「安子は犬や猫が好きだよ。もし、子犬が、病気をしたり、ケガをしたら、どう思う?」

娘「かわいそうになって看病してあげると思う」

母「そうね。その、かわいいとか、かわいそうにとか、元気に育ってほしいって思う気持ちは、

じつは神様の心なんだよ。そして、その同じ心を人間は神様からもらっているの」

娘「じゃあ、私の中にも神様がいてること?」

母「そうだね」

娘「うん。分かった! あした友達にも教えてあげるよ」

神様はいます。このお話のように、私たちが生きていること、それ自体が何よりの証となるのではないのでしょうか。さあ、みなさんも神様を感じてみてください。

きっと新たな喜びが生まれてくるはずですよ。



# 金光教の考え方を教えてください

世の中には多くの問題や事柄があり、さまざまな考え方があります。それらの問題について、私たちは、「人が助かりさえすれば、それでよい」との金光教祖の教えに基づいて考え、答えていきたいと思えます。

## Q 金光教も、日柄や方角を見るのですか。



**A** 金光教では、日柄や方角を見たり、それによって吉凶を占ったりはしません。なぜなら、人間はみな、いつ、どこにいても神様の恵みを頂き、天地の間に生きているからです。

考えてみると、人間は、日柄・方角に関係なく生まれ、また死んでいき、生きている間だけ、日柄や方角を気にするわけです。いたずらに日柄や方角を気にしたり、運命判断や占いに惑わされるのではなく、何事も神様にお願いしていく心が大切です。

また、「厄年」ということについても、金光教では、年代的にとくに社会や人のお役に立つという意味から、「役年」と教えています。これも同じように、すべては神様のおかげの中の出来事であると考えからです。

日柄や方角に惑わされたり、厄年を恐れて厄払いを願うより、今までの人生を送ってこれたことを神様に感謝し、よいことも、そうでないことも、すべて自分の一生の大切な中身として受け止め、人生を切り開いていくことが大切だと考えます。

## Q 高齢社会だといわれますが、「老い」をどう考えますか。

**A** 長生きはありがたいことです。老いていくと気力や体力、記憶力が衰えますが、これまで生きてこれたからこそ、老いることもできるのです。長い人生で得た豊富な体験と知恵を生かし、人を励ましたり、相談にのったりと、老いて、ますます磨きがかかることもあります。

家族や周囲にとっては、介護などさまざまな苦勞もありますが、お年寄りは自分たちにつながる「いのちのもと」として、また、これまでの社会を築いてくれた功勞者として、「あなたあつての私」という見方に立ち、大切にしていきたいものです。



## Q 他の宗教をどう見ているのですか。

**A** 金光教は、他の宗教を認め、てんちかねのかみ 尊ぶ精神を持っています。それは、人類の営みすべてが、天地金乃神のおかげの中にあると考えるからです。しかし、近年、宗教の名を借り、自らの利益のために、入信の強制や財の強要をしたり、人を傷つけても平気な集団や組織が現れています。

人を助けることが宗教本来の姿です。自己中心的、独善的な集団には、「人の助かり」という視点から、時には厳しい目を向けなくてはならないと考えます。



## 金光教宣言

大なる天地に生かされる人間として  
すべてのいのちを認め、尊び  
神と人、人と人、人と万物が  
あいよかけよでともに生きる世界を実現する

金光教は21世紀のはじめ、「金光教宣言」を表明しました。

私たちが大切に考えなくてはならないこと、それは、お互いが「大なる天地」に生かされる人間同士として、ともにかかわり合って生きているという自覚に立つことです。そして、お互いの多様性を認め、「あなたあつての私」という見方に立って尊重し合い、また、「物」に対しても、感謝の念と謙虚さを持つことです。そのような考え方に立つことが、平和への道のりの第一歩であると信じます。

### 金光教についてのお問い合わせ

金光教について、さらにお知りになりたい方、もっとステキな人生を歩みたい方、また、何か問題を抱え、悩み、苦しんでおられる方、封書でも電話・メールでも結構ですので、お気軽に下記までご連絡ください。もし、お近くに金光教の教会をご存じであれば、直接出向かれてもけっこうです。ご相談の内容がほかに漏れることはありません。

#### 金光教本部教庁

〒719-0111 岡山県浅口市金光町大谷320 TEL.0865-42-3111/FAX.0865-42-4419

#### 金光教東京センター

〒113-0033 東京都文京区本郷2丁目17-11 TEL.03-3818-6321/FAX.03-3818-6323

#### 金光教名古屋センター

〒451-0043 愛知県名古屋市中区新道1丁目26-13 TEL.052-433-8181/FAX.052-571-8007

#### 金光教大阪センター

〒541-0056 大阪府大阪市中央区久太郎町1丁目4-13 TEL.06-6121-2323/FAX.06-6121-6323